

令和8年1月吉日

さぎそう学舎世田谷区立八幡小学校
校長 阪田 敦子 殿

学校関係者評価委員会
委員長 岡 篤
委員 中嶋 猛夫
八尾 孝枝
田部井 朝恵
大深 譲
(事務局)井下 玲生奈

令和7年度学校関係者評価結果報告書

今年度の「学校関係者等評価アンケート」の調査結果を調査・分析し、以下の通りまとめましたのでご報告いたします。

ご協力いただいた皆様に感謝いたしますとともに、本報告書をよりよき学校運営のための一助としてご活用いただき、八幡小学校が益々発展されますことを委員一同祈念いたします。

目 次

- I. アンケート回収率〈児童〉〈保護者〉〈地域〉
- II. アンケートについての学校関係者評価委員会の分析・聞き取り・所見
〈児童の評価〉〈保護者の評価〉〈地域の評価〉

※ 文中ではアンケート結果の「とても思う」「思う」の回答を肯定的評価とし、「あまり思わない」「思わない」の回答を否定的評価と表現する。

I. アンケート回収率

〈児童〉

	5年	6年
児童数	47	58
回収数	44	52
回収率	93.6%	89.6%

〈保護者〉

()内は、前年度回収率

	全体
児童数	339
回収数	255
回収率	75.2% (73%)

〈地域〉

	全体
配布数	35
回収数	22
回収率	62.8%

Ⅱ. アンケートについての学校関係者評価委員会の分析・聞き取り・所見

1. 本校の学習指導について

児童	保護者	地域
全体的に高い評価である。主体的に学習ができており、先生による工夫もなされていると思われる。	学校が取り組んでいることが浸透し前向きな回答となった。	

2. 本校の生活指導について

児童	保護者	地域
昨年と同様に肯定的評価が高いが、タブレットやインターネットのルール厳守についてはやはり1割程の児童が守れていない。	6割がタブレットやインターネットのルールを厳守しているということであれば、大きく問題ではないと評価できる。児童は学校内での利用を中心に回答した可能性があり、保護者は家庭内を中心に回答した可能性があるため、乖離が生じたものと考ええる。	概ね元気なあいさつができており、マナーを守って登下校を行っているという評価できる。

3. 本校の学校行事(運動会・学芸会・展覧会宿泊行事など)について

児童	保護者	地域
高評価を維持している。本年度より「こどもまんなか」のキャッチフレーズを掲げ、取り組んでいる。行事においても子どもが主体的に取り組めるような工夫を行っている。その結果、児童の意欲面が高くなった。	高評価を維持している。本年度より「こどもまんなか」のキャッチフレーズが保護者内でも浸透しており、行事において理解が深まっているものと評価できる。	高評価を維持している。地域の方々にも周知ができており、行事に対する理解が深まっていると考える。

4. キャリア教育について

児童	保護者	地域
キャリア教育が浸透しているという評価となる。自分の目標を立て、学習を振り返り、次の学習に活かす指導を進めていることから、成果が表れ始めているといえる。	約7割の保護者が理解をしており、昨年より向上していることから、キャリア教育が浸透しているという評価となる。	

5. 本校の教職員について

児童	保護者	地域
肯定的評価が高く、教職員との距離は比較的近く相談しやすい環境と言える。また授業が分かりやすいという評価も高く教職員の努力がみられる。	子どものことを相談しやすいについては評価が下がった。学級担任制と異なり担任が固定されないことにより戸惑いがまだあると考える。	

6. 学校全般について

児童	保護者	地域
家庭での学習については高学年であることから学習塾も含まれていると想定できる。また低学年では基礎が出来ていない中で自主性を重視することに限界もあるため学年に応じて対応方法については検討が必要ではないか。八幡中学校との交流は継続的に実施しており、運動会でも受付や準備、見守りなど多数中学生が参加している。地域の行事について、5・6年生の参加率が低い行事も事例にあがっていたや、塾などの習い事もあり5割にとどまった。そもそも高学年になると行事に参加する児童は減少するため5割は妥当な範囲だと考える。	家庭での学習は浸透していると考え。本校の教育活動に満足しているについては、教育システム(学年チーム担任制などへ)の変更に對して保護者の受け止め方により戸惑いが生じた可能性があったと考える。	今年度からの項目であったが、95%という高い評価であることから、非常に協力的であることが伺い知れる。

7. 学校からの情報提供について

児童	保護者	地域
	学び舎の情報提供について、5割にとどまっているため一層の努力が求められる。保護者会についてはオンライン化している為、保護者同士のコミュニケーションの場が減少している。一方、仕事などで参加できなかった方が職場からの参加が可能のため参加者は増えている(数字だけの評価ではなく意見も含め評価した)。	「学び舎」に関する情報が保護者や地域に届いていない。地道に情報発信することが重要である。展覧会では、学び舎の作品掲示を行ったり、運動会では、多くの八幡中ボランティアに参加してもらったりしている。今後もさぎそう学舎での取り組みを紹介し認知度を上げる。

8. 学校の経営方針について

児童	保護者	地域
	非認知能力の育成については、目に見えない部分のためこのような結果となった。今後を見守りたい。	そもそも非認知能力という言葉がわかりにくいので、次回伝え方を工夫した方がいいのではないかと考える。

9.学校と家庭の連携について

児童	保護者	地域
	学校行事、PTA や地域主催の行事については、減少したものの保護者が参加しにくい環境でもあるため仕方がない。	

10.地域との連携について

児童	保護者	地域
	「防災活動や盆踊りなど地域行事を通して、子どものために保護者と地域と学校が連携することが大切だと思う。」に対して、大きく評価が上昇しているが、保護者同士の繋がりや絆などを求めているであろうと考える。	学校運営委員会の活動に対して、数値が減少した理由は不明であるが、防災活動や地域行事においては従来通り高評価であることから継続して地域との連携をはかっていただきたい。

11.学校の安全性について

児童	保護者	地域
	自然災害時の対応について、9月11日の大雨の際、的確な情報発信を学校側から行っており、保護者としては意識向上に繋がったものと思われる。	学校は安心・安全な学校づくりをすすめているという項目について、何らかの事例がある可能性があるが、減少した理由は不明である。

